

日本音楽知覚認知学会平成 25 年度第 2 回理事会 議事録

日時：平成 25 年 11 月 9 日（土曜） 11：00～12：25（終了）

開催場所：東京情報大学 千葉ステーションキャンパス ゼミナール室

出席者（敬称略）：星野悦子、小川容子、山崎晃男、谷口高士、津崎実、三浦雅展、荒川恵子、
大串健吾、桑野園子、菅千索、森下修次、上田和夫、吉野巖、三雲真理子、亀川徹

オブザーバー：饗庭絵里子、安井希子、生駒忍

報告

1. 荒川恵子常任理事（学会賞担当）から、平成 25 年度春季研究発表会研究選奨受賞者について、以下の通り報告された。（平成 25 年 5 月 30 日付け理事メール 0055 で報告済み）
受賞者：安田恭子（やすだやすこ）（愛知淑徳大学人間情報学部）
題目：表情顔の検出における背景音楽の効果と N170 の年齢差
2. 荒川恵子常任理事（学会賞担当）から、平成 25 年度秋季研究発表会研究選奨選定委員を 4 名に委嘱した旨、報告された（委員長は上田和夫理事）。なお、各理事から推薦者を記すための用紙が配布された。
3. 三浦雅展常任理事（学会アーカイブ担当・学会 HP 担当）から、学会 HP の外部サーバーへの移行の作業状況が報告された。前回の理事会で外部のサーバーへ委託することが決まり、検討の結果、（会社名）さくらインターネットの「スタンダードプラン」（年間費用：5,000 円）との間に昨日契約を交わしたことが報告された。今後、移行に関する技術面をクリアしていく実際の作業に入る。

星野悦子会長から、以下の 4、5、6 の報告がなされた。

4. 学会誌バックナンバー電子化の進捗状況について：本学会「著作権チェックリスト」が 6 月末に著作権WGの意見を反映させて一応完成し、それにのっとり会長、副会長の計 3 名が学会誌「音楽知覚認知研究」第 1 巻から第 6 巻 2 号までの計 21 本の原著論文をチェックした。17 本が問題なしとみなされた。残る 4 本については今後個別に対応して、著作権に抵触しないと確認できた論文から順次 PDF 化してアップしてゆく。
5. 日本学術会議協力学術研究団体の称号申請について：高橋範行常任理事（事務局担当）が中心となり 6 月から申請書類の準備や会員名簿の整備に取り組んだ。会員からの回答回収にかなりの時間を要したが、集計の結果、「役員」ならびに「構成員」の研究職比率がそれぞれ過半数に達していることを確認した。11 月 4 日に学術会議事務局へ名簿と書類等を発送し、11 月 8 日に同事務局より来年 1 月にヒアリングを行うことが伝えられた。
6. 「入会フォーマット」の追加項目について：入会申込書のフォーマットに「性別」と「職名」の記載項目を追加した旨を報告し、了解を得た。
7. 津崎実常任理事（学会誌編集委員長）から、「音楽知覚認知研究」の発刊と今後の予定について報告された。現在、第 19 巻第 2 号が印刷所へ入稿されており、ひと月ほどで会員の手元に届く。第 20 巻第 1 号は査読中の論文が 2 件あり、寄書について安田恭子さん（研究選奨受賞者）へ打診中である。任期終了の山田真司先生に変わり、西村明先生が副編集長を務めることが提案され了承された。
8. 山崎晃男副会長（国際渉外担当）から、国際音楽知覚認知会議(ICMPC)と APSCOM の合同国際学会が来年 2014 年 8 月 4～8 日の 5 日間、韓国ソウル市のヨンセイ大学で開催されることが報告された。その後、欠席した中島祥好常任理事（国際渉外担当、APSCOM 副会長）の代理として、上田和夫理事が次の 3 点を追加提案した。①ICMPC&APSCOM2014 の HP と JSMPC とをリンクさせ

てほしい。②ぜひ多くの会員に発表を申し込んでほしい。③3年後（2017年）のAPSCOMは日本のどこかで引き受けることになるので、どこならできるかの検討を始めてほしい。

9. 三浦雅展常任理事から、International Symposium on Performance Science(ISPS)が2015年9月2～4日に龍谷大学で開催を計画中であることが報告された。音楽知覚認知学会との協賛も視野に入れて今後の経過を見守ることになった。
10. 桑野園子理事（アーカイブWGチーフ）から、学会HPへのアーカイブ掲載作業について現在までの進捗状況が報告された。新規に、これまでの研究発表会資料（「予稿集」）の内容を掲載することが提案され了承された。他の団体と共催の場合にどのようにするかは、別途相談しながら進めてゆくことになった。

議題

1. 荒川恵子常任理事（学会賞担当）から、2巻分をひとまとめに選考することになっている「論文賞」の選考が4巻分溜まっており、今回は第15巻、第16巻、および第17巻、第18巻を合わせて4本の原著論文を審査対象としてはどうか、との提案がなされた。選考委員は同じメンバーとするが、2巻分ずつ区切りをつけて2回の選考をすることが妥当であるとの意見が出され了承された。
2. 津崎実常任理事（学会誌編集委員長）から、研究選奨受賞者の決定を本人に連絡する際に、今後は学会誌への寄書の勧誘文書をつけて一緒にメール送信してほしいとの希望が出され、了承された。編集部で勧誘の文書を作成して学会賞担当理事へ渡した後に「受賞連絡+寄書勧誘」のメールを送ることとなった。
3. 津崎実常任理事（学会誌編集委員長）から、研究発表会の特別企画と学会誌の特集号をリンクさせてはどうかとの提案がなされた。年2回の研究発表会のうちの一回に「テーマ」をもたせることで、学会誌には特集号を組むことにする。そのことで、より論文を集めることにつながる旨が話し合われ、実施してゆくことが了承された。
4. 谷口高士常任理事（研究発表会担当）から、次回平成26年度春季研究発表会は愛知県立大学（世話役；高橋範行先生）で2014年5月24日、25日に開催されることが報告された。
5. 谷口高士常任理事（研究発表会担当）から、大学を借りられない場合の貸し会場費や大学でも施設使用料を徴収される場合に備えて、会場使用料の会計項目を設置してはどうかと提案された。会場関係費として、現在の研究発表会費用5万円とは別途に7万円程度（この金額については、事務局と相談する）を計上することが了承された。

以上